

平成 2 1 年度岡山県環境保健センター試験研究課題中間評価票（課題 1）

番号	21-01	課題名	有害化学物質の環境汚染実態の解明と分析技術の開発に関する研究		
期間	H20～24年度	担当部課室	環境科学部 水質科	評価者	井上、多田 田口、山田 徳丸、野上

評価項目	評価の視点					評価結果
目標達成可能性	5：計画を大きく上回って進んでいる。 4：計画を上回って進んでいる。 3：計画どおりに進んでいる。 2：計画より遅れている。 1：計画より大幅に遅れており見直しが必要。					3.3
	5：0	4：2	3：4	2：0	1：0	
目標達成可能性	5：阻害要因はなく計画以上の成果と進捗が期待できる。 4：阻害要因はなく計画以上の成果が期待できる。 3：阻害要因はなく計画どおりの進捗が見込まれる。 2：阻害要因が発生している。 1：阻害要因が発生しており見直しが必要。					3.2
	5：0	4：1	3：5	2：0	1：0	
必要性	5：著しく高まっている。 4：高まる傾向にある。 3：変化していない。 2：減少傾向にある。 1：著しく減少又は認められなくなっている。					3.7
	5：0	4：4	3：2	2：0	1：0	
有効性	5：著しく高まっている。 4：高まる傾向にある。 3：変化していない。 2：減少傾向にある。 1：著しく減少又は認められなくなっている。					3.8
	5：0	4：5	3：1	2：0	1：0	
効率性・妥当性	5：著しく効率的に実施できている。 4：効率的に実施できている。 3：計画どおりに実施できている。 2：課題が生じている。 1：課題が生じて見直しが必要。					3.8
	5：0	4：5	3：1	2：0	1：0	
総合評価	5：優先的に継続することが適當。 4：継続することが適當。 3：計画変更して継続することが適當。 2：継続の必要性が低い。 1：中止すべきである。					4.2
	5：1	4：5	3：0	2：0	1：0	

評価項目：5から1までのいずれかを記入

総合評価：評価項目を総合的に勘案し、5から1までのいずれかを記入

助言・指摘事項等

- ・環境省の化学物質分析法開発と連携し、県独自の緊急時に即した分析技術の開発や汚染実態の把握に取り組んでおり、大きな成果を上げている。県民の安全・安心を守るため、また職員の技術力・研究力の維持向上のため、本研究を継続することが必要と考える。
- ・今後、研究の意義及び成果を、より県民に分かりやすく情報発信するとともに、行財政改革の推進が業務遂行上の阻害要因とならないよう、環境省委託費以外の外部資金の導入等についても検討を進められたい。

平成 21 年度岡山県環境保健センター試験研究課題中間評価票（課題 2）

番号	21-02	課題名	胃腸炎ウイルスの疫学的研究			
期間	H20～24年度	担当部課室	保健科学部	ウイルス科	評価者	野上、多田 田口、山田 徳丸、井上

評価項目	評価の視点					評価結果
目標達成可能性	5：計画を大きく上回って進んでいる。 4：計画を上回って進んでいる。 3：計画どおりに進んでいる。 2：計画より遅れている。 1：計画より大幅に遅れており見直しが必要。					3.2
	5：0	4：1	3：5	2：0	1：0	
目標達成可能性	5：障害要因はなく計画以上の成果と進捗が期待できる。 4：障害要因はなく計画以上の成果が期待できる。 3：障害要因はなく計画どおりの進捗が見込まれる。 2：障害要因が発生している。 1：障害要因が発生しており見直しが必要。					3.2
	5：0	4：1	3：5	2：0	1：0	
必要性	5：著しく高まっている。 4：高まる傾向にある。 3：変化していない。 2：減少傾向にある。 1：著しく減少又は認められなくなっている。					3.8
	5：0	4：5	3：1	2：0	1：0	
有効性	5：著しく高まっている。 4：高まる傾向にある。 3：変化していない。 2：減少傾向にある。 1：著しく減少又は認められなくなっている。					3.8
	5：0	4：5	3：1	2：0	1：0	
効率性・妥当性	5：著しく効率的に実施できている。 4：効率的に実施できている。 3：計画どおりに実施できている。 2：課題が生じている。 1：課題が生じて見直しが必要。					3.5
	5：0	4：3	3：3	2：0	1：0	
総合評価	5：優先的に継続することが適當。 4：継続することが適當。 3：計画変更して継続することが適當。 2：継続の必要性が低い。 1：中止すべきである。					4.2
	5：1	4：5	3：0	2：0	1：0	

評価項目：5 から 1 までのいずれかを記入

総合評価：評価項目を総合的に勘案し、5 から 1 までのいずれかを記入

助言・指摘事項等

- ・胃腸炎ウイルスについて、検査法の開発改良を行い、新型・変異ウイルスの出現を監視し、その成果を学会等において積極的に発表している。新型インフルエンザが大流行する現在、県民の健康危機管理に関する意識は高く、本研究を継続する必要があると考える。
- ・今後、研究目標及び成果をより県民に分かりやすく情報発信するとともに、行財政改革が業務遂行上の障害要因とならないよう、健康危機管理に必要な人員及び予算の確保に配慮されたい。
- ・なお、新型インフルエンザ対応による研究の遅れは、健康危機管理上、不可避なものである。

平成 21 年度岡山県環境保健センター試験研究課題中間評価票（課題 3）

番号	21-03	課題名	食の安全に関する調査研究		
期間	H20～24年度	担当部課室	保健科学部 衛生化学科	評価者	野上、多田 田口、山田 徳丸、井上

評価項目	評価の視点	評価結果
目標達成可能性	5：計画を大きく上回って進んでいる。 4：計画を上回って進んでいる。 3：計画どおりに進んでいる。 2：計画より遅れている。 1：計画より大幅に遅れており見直しが必要。	3.3
	5：0 4：2 3：4 2：0 1：0	
目標達成可能性	5：阻害要因はなく計画以上の成果と進度が期待できる。 4：阻害要因はなく計画以上の成果が期待できる。 3：阻害要因はなく計画どおりの進捗が見込まれる。 2：阻害要因が発生している。 1：阻害要因が発生しており見直しが必要。	3.2
	5：0 4：1 3：5 2：0 1：0	
必要性	5：著しく高まっている。 4：高まる傾向にある。 3：変化していない。 2：減少傾向にある。 1：著しく減少又は認められなくなっている。	4.2
	5：1 4：5 3：0 2：0 1：0	
有効性	5：著しく高まっている。 4：高まる傾向にある。 3：変化していない。 2：減少傾向にある。 1：著しく減少又は認められなくなっている。	3.8
	5：0 4：5 3：1 2：0 1：0	
効率性・妥当性	5：著しく効率的に実施できている。 4：効率的に実施できている。 3：計画どおりに実施できている。 2：課題が生じている。 1：課題が生じて見直しが必要。	3.5
	5：0 4：3 3：3 2：0 1：0	
総合評価	5：優先的に継続することが適當。 4：継続することが適當。 3：計画変更して継続することが適當。 2：継続の必要性が低い。 1：中止すべきである。	4.2
	5：1 4：5 3：0 2：0 1：0	

評価項目：5から1までのいずれかを記入

総合評価：評価項目を総合的に勘案し、5から1までのいずれかを記入

助言・指摘事項等

- ・食品の行政検査における検査手法の確立に関する研究に取り組んでいる。食の安全は、県民にとって非常に関心の高い事項なので、本研究を継続する必要があると考える。
- ・今後、研究目標及び実施内容をより具体化し、行政検査との区分を明らかにするとともに、得られた成果をより県民に分かりやすく情報発信してほしい。
- ・また、行財政改革の推進が業務遂行上の阻害要因とならないよう、健康危機管理に必要な人員及び予算の確保に配慮されたい。